

タカハシの 天体望遠鏡は

1 光学性能

光学性能の良さを判断するポイントとして、屈折式では色収差などの補正がなされていることが重要です。フローライトやEDに代表される特殊低分散ガラスは特別な性能を持っているので、通常の光学ガラスだけでは実現できない、理想的な対物レンズを作ることができるからです。

反射式では、鏡面がいかに高精度に研磨されているかが重要です。これはカタログからでは判断できないので、メーカーの信頼度や評判などの情報を頼りにするか、実際に見る機会があればぜひ実機をのぞいてみてください。

なお、同じ光学系ならば、望遠鏡の性能は口径が大きいほど良いとお考えください。

2 機械精度

光学系がいくら優れていても、それを支える架台がしっかりしていないと、光学系の本来の性能を引き出すことができません。光学系の性能が良いだけに、架台はそれを上回る精度が要求されます。特に赤道儀の赤経軸に使われるウォームギアの精度は重要で、いわゆるピリオディックモーション(周期的に現れる追尾誤差)の大きさとなって現れます。

タカハシのウォームギアは、全て精密ネジ加工がされているので、ピリオディックモーションを最小限に抑えています。

3 モータードライブ

水晶発振制御のステッピングモーターを使用した駆動装置により星の動きを正確に追尾します。特にEMシリーズ赤道儀にはモータードライブが内蔵されているので、すっきりとした外観をしています。

そのなかのTemmaシリーズは、パソコン制御に対応しているので、パソコンを接続すれば天体の自動導入ができます。

4 頑丈な脚

木製三脚からピラー脚まで、各機種に適合した脚を用意しています。脚は全体を支える要ですから、微風で揺れたり振動が止まらないのは問題外です。十分すぎるほどの強度で、全体をがっちりと支えます。

